

125.

617.553

腹膜後畸形腫ノ1例

岡山醫科大學泉外科教室（主任泉教授）

寺迫新次

【昭和8年12月15日受稿】

*Aus der 1. Chirurgischen Klinik der Okayama Medizinischen Fakultät
(Direktor: Prof. Dr. Goro Izumi).*

Über einen Fall von retroperitonealem Teratom.

Von

Shinji Terasako.

Eingegangen am 15. Dezember 1933.

Retroperitoneale Teratome, die sich ohne Zusammenhang mit den Geschlechtsdrüsen entwickeln, werden nur selten beobachtet, besonders selten aber klinisch.

Kürzlich hat ich in unserer Klinik Gelegenheit einen solchen Falle zu beobachten und zu behandeln.

Es handelte sich in diesem Falle um ein 3 Monate altes männliches Kind, bei dem sich der Tumor in der rechten Retroperitoneal-Gegend fand.

Die Röntgenphotographie zeigte einen kleinfingerspitzengrossen Schatten infolge Kalkablagerung in Höhe der X - XI Rippen auf der rechten Seite.

Der Tumor wurde durch Operation entfernt. Seine Grösse betrug 15 x 9 x 8 cm, sein Gewicht 400 gr. Makroskopisch zeigte sich der Tumor grob höckerig und an seinem einen Ende waren einige Haare zu sehen. Histologisch zeigt sich embryonales Gewebe und in dessen Folge 3 Keimblätter (Haut, Haare, Ganglien, Knorpel, Knochen, fibrilläres Bindegewebe, Fettgewebe, glatte und quergestreifte Muskelfasern, Blutgefässen, Flimmerepithel usw.).

Der kleine Pat. verstarb leider 10 Stunden nach der Operation. (Autoreferat.)

内 容 目 次

- | | |
|--------------------|--------|
| 1. 緒 言 | 6. 診 斷 |
| 2. 自 家 症 例 | 7. 療 法 |
| 3. 腹腔内畸形腫ノ定義 | 8. 概 括 |
| 4. 文 獻ニ現レタル後腹膜部畸形腫 | 主要文献 |
| 5. 症 狀 | |

1. 緒 言

生殖腺ト何等ノ關係ヲ有セズシテ發生スル後腹膜部ノ畸形性腫瘍ニ關シテハ Hosmer (1890), Mauchand (1831), Kolb (1909), Budde (1925), 今 (1902), 津田 (1920), 渡邊 (1933) 等ノ諸士ニヨリ 既ニ報告セラレタル所アリト雖モ其ノ數僅々十指ヲ屈スルニ過ギズ殊ニ其ノ殆ド總テハ剖檢或ハ手術後ニ於テ發見セラレタルモノニシテ之ヲ生前若クハ

手術前ニ臨牀的ニ診斷セルモノニ至リテハ蓋シ稀有ナリト謂ハザル可ラズ, 最近余ハ我教室ニ於テ生後3箇月ノ男兒ニ偶發セル後腹膜部腫瘍ニシテ而モ術前之ヲ畸形腫ト診定シ術後更ニ其ノ剔出標本ニ就キ組織學的検索ヲ遂ダ其愈々正確ナルヲ知リ得タル1例ニ遭遇セルヲ以テ爰ニ其ノ概要ヲ報告シテ諸賢ノ御叱正ヲ仰ガントス。

2. 自 家 症 例

患者 草加某 生後3箇月

(昭和8年2月16日生) 男

初診 昭和8年5月22日

主訴 腹部腫瘍

家族歴 特記スペキ事項ナシ, 同胞3人ニシテ患者ハ其ノ末子ナリ。

既往症 正規分娩兒, 母乳栄養, 生後40日頃ヨリ何等認ムベキ原因ナクシテ約1箇月間發熱シ最高40°Cニ及ビシ事アリシモ醫治ニヨリテ良ク全治セリ。

現病歴 初診ノ3—4日前其ノ母偶々患兒ノ腹部ヲ撫セシ所著シク膨滿セル事ニ氣付ケリ, 依テ更ニ詳細ニ検セハ右腹部ニ腫瘍ノ限局セルヲ認メ驚キテ當科外來ヲ訪レ診ヲ乞ヘリ。

現症 一般所見 體格栄養共ニ中等度, 皮膚ノ溫濕正常ニシテ貧血ヲ認メズ咽頭, 舌, 肺, 心,

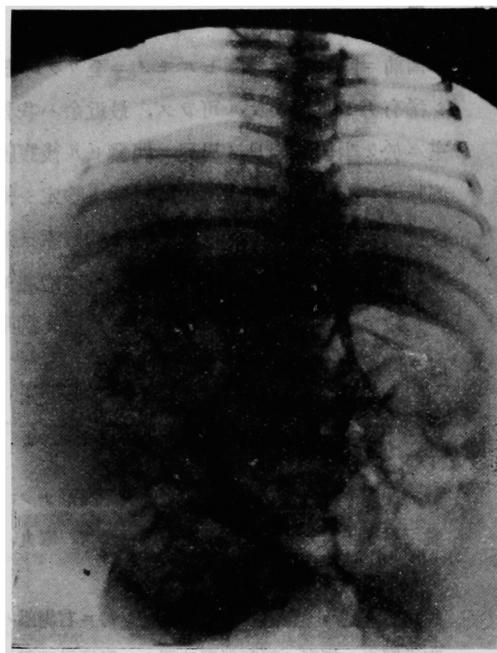
肝, 脾等ニ著變ナシ, 脊椎及ビ四肢ニ變形ナク, 腱反射亦正常ナリ, 大顎門未ダ應合セズ, 睾丸, 副睾丸ハ共ニ下垂シテ正常位ニアリ。

局所々見 腹部ハ蛙腹状ヲ呈シ特ニ右側部ハ膨滿緊張シ輕度ノ靜脈怒張ヲ認ム, 腹蠕動不穩ヲ認メズ, 觸診スルニ右腹側ニ於テ小兒頭大ノ腫瘍アリテ卵圓形ヲ呈シ, 表面平滑, 硬彈力性ニシテ假波動ヲ呈シ, 邊緣鈍圓ニシテ腹壁トハ應着セザルモ, 基底ハ固ク之ト應着シテ移動セズ, 腫瘍ト腹壁トノ間ニハ腸管存スルモノノ如ク, 雷鳴ヲ觸知セリ。腫瘍ノ上界ハ肋骨弓内ニ移行シ肝臓トノ境界不明, 下界ハ右腸骨櫛ニ至リ前界ハ殆ド正中線ニ達ス, 後界ハ肩胛線ニ至リ, 打診スルニ腫瘍ハ梆子音ヲ呈スルモ其ノ外側ニ於テハ腹部ハ一般ニ鼓音ニシテ中等度ノ鼓腸アルヲ認ム。

X線所見 右側腹部ニ於テハ左側ニ比シ軟部

組織ノ増大セルヲ認ム。横隔膜ノ高サハ右第6肋骨、左第5肋骨下線ニアリ心臓ノ位置又正常ナリ。腸管ハ一般ニ中等度ノ鼓脹状態ヲ呈ス。右側第10、11肋骨ノ高サニ於テ小指頭大ニシテ不正形ナル石灰ノ沈着セル像ヲ認ム(第1圖参照)。

第 1 圖



尿。濁度明、弱「アルカリ」性、比重1012。蛋白糖共ニ陰性、沈渣ニハ白血球硝子様圓柱ノ各痕跡ヲ證明セル事アルモ赤血球ハ認メズ。

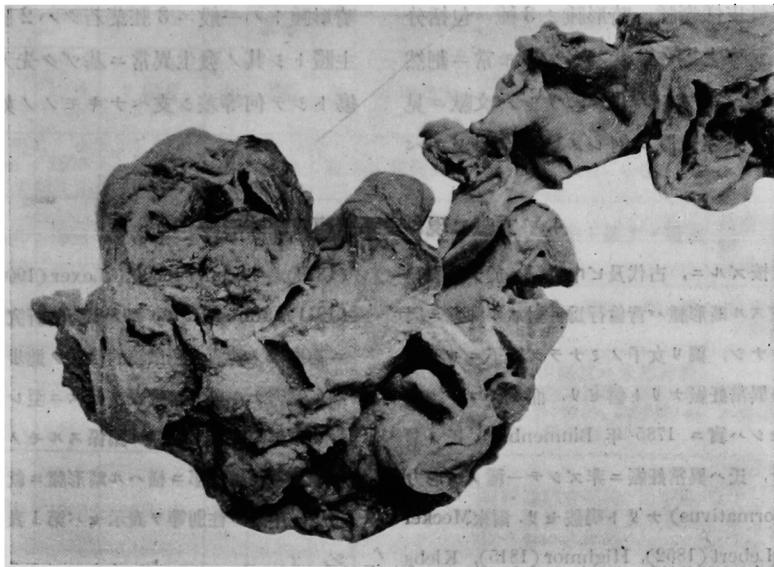
血液。血色素量85%([ザーリー])赤血球數4.81600、白血球數6800、淋巴球30.5%、中性多核白血球57.1%、大單核白血球8.3%、「エオジン」嗜好多核白血球4.0%、酸基性多核白血球0ニシテ幼兒ノ略ボ常數ヲ示シ「ワ」氏反應亦陰性ナリ。

手術前診斷。以上ノ所見ヲ綜合シテ後腹膜部畸形腫ト診斷ス。

手術所見。輕キ全身麻酔ノモトニ腹部ニ長サ15cmノ正中切開ヲ加ヘ腹腔ヲ開クニ大網ヰ全ク上方ニ捲上シ該脂肪組織稍々削減セリ。腹壁竪ニ腸間膜ハ色調正常ニシテ腹腔内ニハ病的滲出液ノ滯留セルヲ認メズ。腸管ハ殆ド全部左側ニ轉位シ其ノ僅カ一部ハ腫瘍ノ前面ヲ走行ス。之ヲ左方ニ排除スルニ腫瘍ハ後腹膜部ニ横ハリテ右腹腔内ニ膨隆シ殆ド其ノ全部ヲ満セリ。腹膜ヲ切開シテ腫瘍ヲ檢セルニ其ノ基底ハ脊椎ノ右方ニ在リテ横隔膜直下ヨリ右腎臍常位ノ部ニ亘リ後腹膜ト纖維性ニ應着セリ。右腎ハ下方ニ壓排セオレテ扁平トナリ。腫瘍ノ被膜ト共ニ包マル。右側副腎ハ其ノ存在不明ナリ。大動脈トノ應着ハ稍々鬆粗ナリ依テ腫瘍周圍ヲ全ク剝離シ腫瘍ノ柄ト看做ス可キモノヲ右腎動靜脈ト共ニ結紮切断シ右腎ト共ニ摘出セリ。而シテ後腹膜ハ可及的縫合閉鎖シ次ニ腹壁ヲ縫合シテ手術ヲ終ル。手術後10時間ニシテ患兒ハ急ニ心臓衰弱ヲ來シ不幸鬼籍ニ上レリ。

摘出セル腫瘍ノ肉眼的所見。腫瘍ノ容積ハ15×9×8cm 重量400g 前面ハ滑澤ニシテ硬朝ナル被膜ヲ以テ蔽ハルルモ、後面ニハ粗大ナル結節状ノ隆起アリテ極メテ凹凸不平ナリ、表面ヨリ之ヲ壓スルニ軟キ部分、骨片ヲ觸ルルガ如キ硬キ部分、緊張彈力性ノ部分等種々ノ硬度ヲ有シ特ニ其ノ一端ニハ短長種々ナル毛髮ノ養生セルヲ認ム。剖面ハ極メテ複雜ニシテ(第2圖参照)裏腫性部ト實性部トヨリナル。而シテ前者ハ小豆大ヨリ鶏卵大ニ至ル大小種々ノ囊腫ヨリ形成セラレ黒褐色ニシテ水様粘液様ノ液體ヲ以テ充ザル。囊腫内面ハ平滑ニシテ光澤ヲ有シ不完全ナル障壁様ノモノヲ有ス。後者ハ主トシテ囊腫ノ周圍ヲ圍繞セル結織繩ノ部分ニシテ所々ニ脂肪組織並ニ筋組織ヲ認メ且其ノ中央ノ前面ニハ骨組織割然トシテ存在ス。

第 2 圖



腫瘍ノ顕微鏡的所見。〔各断面ニ於テ肉眼的ニ各々異リタル外觀ヲ呈セル部分ヲ選ビ多數ノ組織標本ヲ作製シ逐一之ガ顕微鏡的検索ヲ行ヒ結果明カニ3胚葉成分ヨリ成立セル事ヲ認メ得タリ。即チ外胚葉ニ屬スベキ毛根及ビ分化ノ未ダ進マザル皮脂腺ヲ有スル皮膚、神經組織、中胚葉ニ屬ス

可骨、軟骨、豊富ナル滑平筋、分化ノ程度低キ横紋筋、粗或ハ密ナル結節織、脂肪組織、血管、内胚葉ニ屬ス可キ充分ニ發育セル腸管粘膜、毳毛上皮、杯狀細胞、圓柱上皮等ノ雜然トシテ混在セルヲ認メタリ。

3. 腹腔内畸形腫ノ定義

腹腔内畸形腫ノ發生ニ關シテハ其ノ説區々ニシテ未ダニ歸セズ。サレバ畸形腫ノ代リニ3胚葉腫(Tridermon)胎兒腫(Embryom)胎兒様腫(Embryoide)寄生體(Parasit)寄生蟲腫瘍(Parasitäre)雙芽性移植(bigeminaile Implantation)胎芽嵌入(fetale Inklusion)胎兒内胎兒(Fetus in fetus)等ノ名稱ガ屢々使用セラルルガ如ク、諸家ノ分類命名スルトコロ亦頗ル相交錯セリ、就中 Lexer (1900)ハ腹腔内畸形腫ヲ1. 単純性及ビ複雜性皮様囊腫、2. 疊ナキ胎兒ノ包括、3. 畸形

性混合腫ニ分類シ更ニ混合腫ヲ1. 単純性混合腫、2. 畸形性混合腫、a. 複雜性皮様囊腫、b. 畸形性混合腫瘍、3. 畸形腫ニ分類シ畸形腫ハ混合腫ト複雜畸形トノ移行形ニシテ複畸形ノ一部ガ腫瘍ニ發育セルモノト解スベキモノナリト言ヘルモ、津田氏(1920)ハ3胚葉成分ヲ有スレドモ各組織成分ノ相錯綜シテ存在スル畸形性混合腫瘍ト、肢節、腸管、肺、腎、甲狀腺、脾臓、腦等、胎兒遺殘ノ存スル畸形腫トハ臨牀上一括シテ畸形性腫瘍ト稱スル方至便ナリト言ヘリ。而シテ關氏(1927)ハ從來

ノ文献ヨリ蒐集シテ、腹腔内畸形腫ヲ畸形様腫、複雑性皮様囊腫、畸形腫ノ3種ニ包括分類セルモノ元來之等ノ3者ハ必ズシモ常ニ割然ト區別シ得ベキモノニ非ズ。サレバ文献ニ見ル記載例ガ果シテ眞ニ何レノ類形ニ歸屬スペ

キカ疑ヒナキ能ハズト言ヘリ。サレバ腹腔内畸形腫トハ一般ニ3胚葉若クハ2胚葉成分ヲ主體トシ其ノ發生異常ニ基ヅク先天性混合腫瘍トシテ何等差シ支ヘナキモノノ如シ。

4. 文獻ニ現レタル後腹膜部畸形腫

文獻ヲ按ズルニ、古代及ビ中世紀ニ於テハ腹腔内ニ發生スル畸形腫ハ背倫行爲ニ對スル神慾ニ因ルモノトナシ、獨リ女子ノミナラズ男子ニモ亦起リ得ベキ異常妊娠ナリト信ゼリ。而シテコノ迷蒙ヲ啓發セシハ實ニ1785年 Blumenbach 氏ノ業績ニシテ、氏ハ異常妊娠ニ非ズシテ一種ノ成形力 (Nitus formativus) ナリト喝破セリ。爾來 Meckel (1812), Lebert (1852), Highmor (1815), Klebs

(1876), Taruffi (1886), Lexer (1900), Bauer (1911), Jonus (1919) 等ノ學術的研究續出シ、殊ニ胎生學ノ勃興ハ顯微鏡的検索ノ進歩ト相俟テ、諸多優秀ナル業績ノ發表ヲ促スニ至レリ。爰ニ之等ノ報告中ヨリ生殖腺ニ關係スルモノヲ除外シ、且明カニ後腹膜部ニ横ハル畸形腫ニ就テ、報告者、年度、年齢、性別等ヲ表示セバ第1表ニ示スガ如シ。

第 1 表

報告者	年度	年齢	性	手術竝 剖検	腹側	大サ	組織的検索	摘要
Hosmer	1880	8箇月	女	剖検	右	小兒頭大 2 ポンド	毛髪ヲ有スル皮膚、腸、 骨、軟骨、横紋筋、神經 織維、脂肪組織	
Buhl	1881	生後4時間	女	剖検	左	5×7×9.5	胎兒嵌入ニシテ中ニ2cm ノ胎兒ヲ有セリ	
Philipp		2歳6箇月	女	剖検	左	左腎ト共ニ 10—8ポンド	Lexerハ Buhlノ例ト似 タル位置ニ於ケル胎兒嵌 入ト想像セリ	
Marchand	1881	33歳	男	剖検	左	手拳大	硬脳膜及ビ神經ヲ有スル 頭蓋ノ痕跡囊腫、海綿 様構造ヲ有スル生殖器ノ 萌芽、骨、結織織、脂肪組織、 滑平筋、毳毛上皮、圓柱上 皮、胚状細胞	
Tillaux	1886	22歳	女	手術	左	大人頭大 6 ポンド	肉眼的ニ脂肪組織竝ニ骨 組織ヲ認ム顯微鏡的所見 ヲ缺ク	手術翌日「ショック」ノ爲メ死亡
Brouha	1902	26歳	女	手術	左	大人頭大	神經組織、骨、氣管粘膜、 唾液腺、滑平筋、硝子様 ノ軟骨、脂肪組織、結織 織	手術後敗血症ニテ 死亡

報告者	年度	年齢	性	手術並 剖検	腹側	大サ	組織的検索	摘要
今	1904	9箇月	男	手術	左	小兒頭大	結締織、血管、淋巴腺組織、滑平筋、骨、硝子様軟骨、唾液腺、乳腺ノ痕跡、氣管ノ痕跡、脂肪組織	手術後衰弱死
Nicholson	1905	21歳	男	剖検	右	胡桃大	皮膚及ビ其ノ器管、粘液腺、骨、軟骨、中樞神經、末梢神經	
Rosenbach	1906	3歳	男	手術	左	28×10×12	心臓ノ外殆ド總テノ臟器ヲ認ム	術前診断皮様囊腫、手術後24時間虚脱死
Schönholzer	1907	2歳	男	剖検	左	小兒頭大	骨、軟骨、筋肉、毛、齒、中樞神經	急性腹膜炎死ノ剖検
Kolb	1909	4箇月	女	剖検	左	小兒頭大	皮膚、中樞並ニ末梢神經、網膜ノ色素細胞、腸管、唾液腺、骨、軟骨、結締織、横紋筋、滑平筋	腹腔内腫瘍ニヨル衰弱死ノ剖検
Johnson, Lowrence	1909	23/4歳	男	剖検			結締織粘液組織、滑平筋、骨、軟骨、氣管及ビ腸上皮ヲ思ハス細胞	下垂膜瘻ヲ有スル脊椎カリエス患者ニシテ腹膜後畸形腫ノ合併セル報告ナカルモ遺憾其詳細ヲ見ル能ハズ
Kusnetzow	1910	4—5箇月	男	剖検	7箇月妊娠子宮ノ如キ形ト位置ト有ス		骨、軟骨、滑平筋、胰臟様ノモノ重層扁平上皮、鰓毛上皮	
津田	1920	1年5箇月	男	手術	左	大人頭大	腸管、唾液腺、骨、軟骨、脳質、皮膚、毛髮	術前診断腹部兩側性囊腫手術後12時間ニシテ鬼霊
金子	1924	10箇月	男	剖検	左	20×5×10 大人頭大	毛髮ヲ有スル皮膚、脳膜、脳質、神經細胞、骨、軟骨、彈力纖維、結締織、脂肪組織、滑平筋、横紋筋、腸管粘膜、鰓毛柱上皮、杯狀細胞	
Budde	1925	2箇月	Kind	剖検	右	大人頭大	脳質、爪ヲ有スル四肢、其ノ外3胚葉成分	
關	1927	1年10箇月	男	剖検	左	17×14.5×8.5 小兒頭大	毛根及ビ皮脂様ノ基質ヲ有スル皮膚、神經組織、骨、硝子様軟骨、滑平筋、横紋筋、脂肪組織、副腎皮質、血管泌尿生殖器ノ上皮、消化管ノ上皮、唾液腺、胰臟上皮、氣道上皮	臨牀的診斷 限局性腹膜炎
Bauer	1911	14歳	男	手術	左	小兒頭大	齒牙、骨、結締織、血管、脂肪組織、淋巴腺組織、舌	
渡邊	1933	1年11箇月	男	剖検	左	14×10.3×9.5	骨、軟骨、齒牙、滑平筋、横紋筋、血管、鰓毛上皮、脳質、神經節、神經節細胞、網膜ノ萌芽	臨牀的診斷 腹腔内腫瘍
Baljasov	1930	21/2歳	女	手術			胃腸管、中樞神經、氣道、唾液腺、皮膚	手術中「クロロホルム」死
寺迫	1933	3箇月	男	手術	右	15×9×8	皮膚、毛髮、神經組織、骨、軟骨、滑平筋、横紋筋、脂肪組織、血管、鰓毛上皮、杯狀細胞、圓柱上皮	

男女別、Wilms, Lexer 氏等ハ卵巢ノ關係上腹腔内畸形腫ハ女性ニ多シトナスモ、既ニ生殖腺ニ無關係ナル事ヲ前提トセル以上必ズシモ然ラズシテ、前表ニ示セルガ如ク 21 例中男性 13 例、女性 7 例ニシテ若シ Badde 氏ノ Kind ト記セルモノヲ男性ト看做セバ正ニ男性ハ女性ノ 2 倍トナリ。

年齢的關係、抑々畸形腫ノ發生ハ先天性ノモノナレバ、年齢的ニ何等ノ意義ヲ有セザルヤ病ナリ、サレド今日迄發表セラレタル症例ニ就キ年齢ヲ調査スルニ、1 歳以下ノモノ 8 例、1 歳以上 5 歳以下ノモノ 8 例、5 歳以上 20 歳以下ノモノハ 1 例モ無ク、20 歳以上 30 歳以下ノモノ 4 例、30 歳以上 40 歳以下ノモノ 1 例ニシテ殆ド幼兒ニ限ラレ、高年者ニハ誠ニ寡シ。

大サ、報告セラレタル後腹膜部畸形腫ノ大サハ種々ニシテ普通膀胱大ヨリ大人頭大ニ至ル、サレド末大ノモノアルヲ知ラズ。

組織的構成物、元來本腫瘍ハ 3 胚葉成分ヲ具備スル事ヲ要約トス、サレド時ニ所謂懸匪性ノモノアリテ Bauer 氏ハ明カニ兩胚葉成分ノミニシテ全ク外胚葉成分ヲ缺如セル例ヲ見タリト言ヘリ、一般ニ骨組織ハ常ニ良ク發育スルモノノ如ク多クノ例症ニ於テ之ガ記載ヲ見ル、而シテ余ノ例ニ於テモ甚ダ豊富ナル骨並ニ軟骨組織ヲ認メ得タリ、歯牙ハ他部畸形腫ニ於テハ普通存在スルモノナレド後腹膜部畸形腫ニ於テハ稀有ナルモノニ屬シ僅ニ Schönholz, 金子, 渡邊氏等ノ報告例ニ於テ之ヲ見ル、滑平筋及ビ横紋筋ハ何レノ例症ニ於テモ認メラル、而シテ余ノ例ニ於テハ滑平筋ハ囊腫壁腫瘍被膜及ビ其ノ他到ル所ニ於テ束ラ成シテ存在スルモ、横紋筋ハ甚ダ少ク且横紋筋甚ダ幽微ニシテ

全ク胎生初期ノ状態ニ停ル、心臓ハ何レノ例症ニ於テモ常ニ之ヲ缺如スルモノナレド血管ハ甚ダ多ク且良ク發達スルモノナリ、而シテ余ノ例ニ於テモ内中外ノ 3 腹何レモ良ク發達セルヲ認メタリ、呼吸系統ノ存在ハ氣道上皮ニヨリテ暗示セラルモノニシテ余ノ例ニ於テモ此毛上皮ノ存在ヲ證明シ得タリ、消化器系統ニ於テハ報告例ノ大多數ニ於テ良ク發育セル腸管ヲ認メラル、余ノ例ニ於テモ亦然リ、神經系統ハ殆ド何レノ例症ニ於テモ鉢少ニ拘ラズ認メラルモノナリ、感覺器トシテ Kolb, 金子, 渡邊氏等ハ網膜ノ萌芽ヲ認メタリト言ヘルモ、余ノ症例ニ於テハ之ヲ認メ得ザリキ、津田氏ハ頭部及ビ軸幹ニ比スペキモノヲ見、Marchand ハ硬膜膜及ビ神經物質ヲ有スル痕蓋腔ノ痕跡ヲ認メ、Rosenbach ハ頭部軸幹ノ明カニ區別シ得ラルモノヲ報告シ、金子氏ハ頭蓋ヲ證明シ得タリト言フモ、余ノ例ニ於テハ何レモ之等ヲ缺如セリ。

位置的關係、E. Lexer (1900) 氏ハ胎生學的根據ヨリ後腹膜部ニ觀察セラル畸形腫ハ腸間膜ニ原發シ、次テ該部ヲ占居スルモノニテ且常ニ脊椎ノ左側ニ位スト主張セリ、而シテ Kolb (1909), Ehler (1910) 氏等ハ Lexer 氏ノ言ヘルガ如ク後腹膜部畸形腫ノ腸間膜ニ原發スル事ハ認メタルモ、毎ニ然ラズシテ時ニ後腹膜部ニ原發シ、次テ腹間膜ニ擴大シ得ルモノアリト述べ、Lexer 氏ノ説ヲ補足セリ、而シテ余ノ蒐集セル 21 例ニ就テ見ルモ記載不十分ニシテ此關係明カナラザルモノヲ除キ大多數ニ於テハ脊椎ノ左側ニ位置スルモ、Hosmer, Nicholson 及ビ余ノ例ニ於テハ之ト軸ヲ異ニシ、明カニ脊椎右側ノ後腹膜部ニ横ハリ居リ。

5. 症 狀

症狀ハ腫瘍ノ硬度、大小、占居部位ニヨリ

テ異ルモ一般ニ腹部ノ緊張、重壓感、胃、腸

管，膀胱，血管等ノ壓迫症狀ヲ呈シ横隔膜ノ
壓上セラルルヤ心悸亢進，呼吸困難等ヲ惹起
ス。腎臟ハ通例其ノ機能ヲ變ゼザルモ輸尿管

及ビ腎盂ハ擴張シ次テ腎水腫ヲ來ス事アリ其
ノ他腹水種々ノ方向ニ放散スル疼痛等ヲ訴フ
事アリ。

6. 診 斷

本腫瘍ノ臨牀的確診ハ一般醫家ノ甚ダ困難
トスル所ナリ。特ニ後腹膜部ニハ結締織，脂
肪組織，腎脂肪囊，筋肉，脉管，淋巴腺，神
經組織，尙ホ時ニ胎生的遺残物タル Wolf 氏
體，Müller 氏管等ヨリモ，各種ノ腫瘍ノ發生
シ得ルモノナレバ其ノ鑑別タルヤ誠ニ困難ニ

シテ，其ノ確診ハ一ニ組織學的検索ニ俟タザ
ル可ラズ。而シテ「レントゲン」線診斷ハ特ニ
重要ナル役ヲ演ズルモノニシテ之ガ應用ハ必
ズ施行ス可キモノナリ第2圖ニ示スガ如ク余
ノ症例ニ於テハ明カニ石灰沈着像ヲ證明シ得
タリ。

7. 療 法

既ニ津田(癌腫)渡邊(癌腫) Montogomery
(癌腫) Teller(淋巴肉腫) Pilliet(肉腫) 氏等
ガ詳細ニ報告セルガ如ク，後腹膜部畸形腫ハ
屢々惡性ニ變化スルモノナルヲ以テ，之ガ療
法ハ外科的ニ而モ可及的早期ニ完全ニ剔出ス
ルコトヲ原則トス。

豫後。早期ニ完全ニ之ヲ剔出シ得タル場
合ハ時ニ全治スルコトアレド，多クハ初生兒

期ニ發生スル腹部ノ腫瘍ナルガ爲ニ患兒ハ其
ノ手術的侵襲ノ過大ナルニ堪ヘズシテ屢々不
幸ノ轉歸ヲ取ル，況シヤ之ガ發見ノ遲延シ病
機ノ既ニ進行セルモノニ在リテハ假令之ヲ全
剔出スルトモ其ノ豫後ノ不良ナルヤ論ヲ俟タ
ズ，而シテ余ノ例モ術後鬼籍ニ登リシモノナ
リ。

8. 概 括

本例ハ生後3箇月男子ノ後腹膜部ニ於テ脊
椎ノ右側ニ發生セル3胚葉性畸形腫ニシテ臨
牀上特ニ「レントゲン」線検索ニヨリテ確診セ
ラレタルモノナリ。

摺筆ニ當リ恩師泉教授ノ御校閲ヲ深謝シ且御
助言ヲ賜リシ橋本講師ノ恩惠ヲ謝ス。

主要文獻

- 1) Ahrens, Langenbeck's Archiv f. klin. Chirurgie, Bd. 64, 1901. 2) Baljasov, Zit. Zentralorgan, 52, Z. sovrem. Chir., 5. 3) Bauer, Beitr. z. klin. Chirurg., Bd. 75, 1911. 4) Bronha, Ref. Zentralbl. f. Gynäkolog., 1902. 5) Budde, Virchow's Archiv, Bd. 68, 1921. 6) Budde, Zentralbl. f. all. Path. u. path. Anat., Bd. 36, 1925. 7) Ehler, Arch. f. klin. Chirurg., Bd. 92, 1910. 8) Göbell, Deuts. Zeits. f. Chirurg., Bd. 61, 1901. 9) Hans, Arch. f. klin. Chirurg., Bd. 110, 1918. 10) Hecker u. Buhl, Klinik der Geburtshunde. Leipzig, 1861. 11) Hosmer, The Boston med. and surg. Journ., 1881. 12) Jonas, Beitr. z. klin. Chirurg., Bd. 115, 1919. 13) Johnson u. Lawrence, Berlin klin. Wochenschrift, 1909. 14) Keresztszeghy, Ziegler's Beiträge, Bd. 12, 1892. 15) Kolb, Diss. med. Heidelberg, 1909. 16) Kusnetzow, Zentralbl. f. all. Path. path. Anat., 1910. 17) Lexer, Arch. f. klin. Chirurg., Bd. 61, 1900. 18) Lexer, Arch. f. klin. Chirurg., Bd. 62, 1900. 19) Montgomery, Zentralbl. f. all. Path. path. Anat., 1899. 20) Marchand, Breslauer ärztliche Zeitschrift, 1881. 21) Nicholson, Retroperitoneal alteratom, Hildebrand, 1906. 22) Roy, Retroperitoneal alteratom, Hildebrand, 1909. 23) Rosenbach, Arch. f. klin. Chirurg., Bd. 81, 1906. 24) Säxer, Beitr. z. all. Path. u. Path. Anat., Bd. 31, 1902. 25) Schönholzer, Beitr. z. all. Path. u. path. Anat., Bd. 40, 1907. 26) Schönholzer, Ziegler's Beiträge, Bd. 40. 27) Tillaux, Gazette des hopitaux, 1886. 28) Trauffi, Storia sella Teratologie, Bolahna, T. IV. 1886. 29) Winkler, Studien z. path. Entwicklung, Bd. 1, 1914. 30) Wilms, Deuts. Arch. f. kl. Med., Bd. 55, 1895. 31) 津田誠次, 日本外科學會雜誌, 第21回. 32) 金子義晃, 瘤, 第18年, 大正13年. 33) 今祐, 東京醫學會雜誌, 第16卷, 3號. 34) 中山茂樹, 日本外科學會雜誌, 第14卷, 大正2年. 35) 高島令三, 近藤博士記念論文集. 36) 爲森彌三郎, 瘤, 第6年; 日本病理學會誌, 第2卷, 大正元年.